

## 『福島からの提言 応急仮設住宅～思いやりが原点～』 発刊の報告

### これからの仮設住宅への 福島からの提言



NPO 法人 ユニバーサルデザイン・箱

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分。マグニチュード 9.0 という国内史上類を見ない巨大地震が発生しました。

本県でも、震度 6 強を観測し、死傷者・行方不明者約 2000 人を超え、20 万棟を超える建物が被災しました。さらに、東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故により、県内外に 15 万人を超える人々が、今なお避難生活を余儀なくされています。本県は、原発事故に伴う避難が過半を占め、今まで暮らしてきたまちや、家、仕事をすべて失い、移り住まなければならない。いつ戻れるのかという先が見えない不安が押しかかり、それは想像を絶する、当事者にしか分らない深い心の苦しみがあり、大きな特徴であります。

本会は、ユニバーサルデザインの考え方で、建物やまちづくりに、住環境の整備に日頃から尽力していますが、この度、応急仮設住宅に対し、ユニバーサルデザインの観点から、「住まい」としての調査を実施いたしました。私たちは、やはり、応急仮設住宅であろうと人が住む以上、一定のレベルを保持しなければならないと考え、そのため、今回、調査を実施し、明らかになった課題と対応方法を“提言”という形で整理しました。

### ◆なぜ、応急仮設住宅 UD チェックをするのか？

阪神・淡路大震災から新潟県中越地震と過去の震災の経験から、従来の応急仮設住宅では、如何に早く、大量に建てることに比重が置かれ、“誰にでもやさしく、使いやすく”そういったユニバーサルデザインについては言及されていませんでした。しかし、応急仮設住宅といえ、そこには人の、それも震災によって心身ともに傷ついた人々が、立て直しに向かっていく生活の場であるのです。

『「応急仮設住宅」とは、自ら住居を確保することができない被災者に対して、簡単な

住宅を仮設し、一時的な居住の安定を図ることを目的にしている』とあります。  
今回、福島県における応急仮設住宅もこれまでの災害で設置されたものを基準としています。

仮に一時的な住まいであっても、暮らす人にとっては大切な「住まい」なのです。

避難先での「一時的な住まい」にも、快適とはいかないまでも、“人としての誇り”や“その人らしさ”を失わないような生活ができる住まいでなければならないと思います。そのためにも、このユニバーサルデザインの視点に基づいたチェックは、重要であり、この視点で現状をみれば、「どんな住宅にすればいいのか」が正直な形として見えてきます。

応急仮設住宅に対し、「住まい」としての「構造・高さ・広さ・段差・音・振動・暑さ・寒さ・移動等」、ユニバーサルデザインの視点での調査と、住んでいる方々への聞き取り調査を実施し、明らかになった課題と対応方法を“提言”という形で整理しました。

この提案書にある“あるべき姿”を、そして聞き取りに協力してくださった方たちの“願い”を真摯に受け止め、これまでの災害復興の概念の殻を破り、今後の道標として活用していただきたいと思います。

#### ◆復興は、ユニバーサルデザインで！

私たちは、この調査を通し、復興には“ユニバーサルデザイン（UD）の心”が必要であると改めて感じた。

震災以降、私たちは、一人ひとりが、命の安全・安心を第一に考えるとともに、自らをかけがえのない存在として大切に思ったのと同様に、他者もまたかけがえのない大切な存在であることを改めて感じたことと思います。被災地において、県内外から多くのボランティアが駆けつけ、被災者のために様々な活動をしてくださいました。厳しい避難生活の中で、どれほど心を和ませ、気持ちに張り合いを与えてくれていることでしょう。

こうした“思いやり、助け合いの心”は、ユニバーサルデザイン（UD）の原点である。“UDなくして、ふくしまの復興なし”そう考えます。

最後に実態調査にご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

仮設住宅に住む避難された方々のご協力に感謝申し上げます。

みなさまの想いがこの調査書によって、市町村や県、国といった様々な関係者の方へ届けられることを願って・・・

平成24年4月9日

## 最後に

この「応急仮設住宅 UD 調査」は、東日本大震災の6ヶ月後の9月から、調査を開始し、翌年1月から3月に提言としてまとめる作業をしていました。そして丁度、震災1周年を迎え、各地で追悼の儀式が行われていました。

東日本大震災、原発事故という国難に直面し、その直後からの対応の遅さ、内容の悪さから政治に失望した国民は多く、制度の見直しが必要だという意識が高まっています。

災害対策基本法は、地方自治体が、主体となるボトムアップ型の法律ですが、中央政府にどうやって集権するか、また地方にどう分権するかという問題が浮き彫りとなり、柔軟な対応の必要性が感じられます。

私たちは、東日本大震災で、被災した経験から、課題を挙げ、今後の災害に対処しなければなりません。この提案書は、その課題の一つ、応急仮設住宅の現状とあるべき姿を記したものです。調査では、私たちは様々な方たちと出会い、体験や抱えている思い、今後の生活への不安等、さまざまなお話を聞かせていただきました。この提案書は、そんな人たちのたくさんの“思い”“訴え”が詰まったものだと思っています。

ぜひ、この提案書にある“あるべき姿”を、そして“願い”を真摯に受け止め、今後の対策を講じていただきたいと思います。

私たちは、この調査を通し、復興には“ユニバーサルデザイン（UD）の心”が必要であると改めて感じました。

震災以降、私たちは、一人ひとりが、命の安全・安心を第一に考えるとともに、自らをかけがえのない存在として大切に思ったのと同様に、他者もまたかけがえのない大切な存在であることを改めて感じたことと思います。被災地において、県内外から多くのボランティアが駆けつけ、被災者のために様々な活動をしてくれました。厳しい避難生活の中で、どれほど心を和ませ、気持ちに張り合いを与えてくれていることでしょう。

こうした“思いやり、助け合いの心”は、ユニバーサルデザイン（UD）の原点なのです。“UDなくして、福島の復興なし”そう考えます。

きっと、お互い支え合い、助け合う、そんな心が、たくさん集まった福島は、強く、やさしい、かがやく福島となっているでしょう。



がんばろう福島 / “絆”づくり応援事業  
これからの仮設住宅への福島からの提言

2012年3月発行



発行

NPO 法人 ユニバーサルデザイン・福

〒980-8142

福島県福島市小倉寺字中ノ内27番10

TEL 024-528-9991 FAX 024-528-9992

ホームページ <http://www.ud-yui.com/>

E-mail [info@ud-yui.com](mailto:info@ud-yui.com)